

旭川源流域の自然満喫

ウスイロヒョウモンモドキ見つけた！。環境保護に取り組むNPO法人「グリーンパートナー」おかやま（岡山市）は28日、新庄村で自然体験学習会を開催。県南から参加した親子ら55人が、貴重なチョウが舞う旭川源流域の豊かな自然について学んだ。（神吉孝彦）

瀬戸内海を考
らるが参加した。

える今年の活動の第1 参加者は毛無山のふ
弾。海へ流れ込む水循 もとにあるキャンプ場
環の『出発点』を見学 に集合。村職員から標
しよつと、岡山、赤磐、高700以上のところから
瀬戸内市などから小中 水が旭川へ流れます」
学生28人と、その家族 などと説明を受けた

ブナ林、せせらぎ、珍しいチョウ…



ウスイロヒョウモンモドキの生息地を見学する参加者ら

新庄で 県南の親子ら55人参加

後、森林浴用の遊歩道
・セラピーロード（全
長2キ）を歩いた。

参加者たちはブナや
スギが生い茂った森に
入り、ひんやりとした
空気に感動。「冬には
2センチ近く雪が積もるた
め水が豊富です」とい
った案内に驚いたり、
溪流のせせらぎや小鳥
のさえずりに耳を傾け
ながら、腐葉土が積も
った森の散策を満喫し
ていた。

また、絶滅危惧種
のチョウ・ウスイロヒョ
ウモンモドキの生息地
を見学。ひらりひらり
と舞う姿を見つけて歓
声を上げていた。

瀬戸内市立邑久小4
年の原田祐紀君（10）は
「珍しいチョウが見ら
れて良かった。きれいな
川を見て、汚しては
いけないと感じた」と
話していた。



海ごみ減らそう

沿岸、上流域で回収や学習会 意識向上狙う

岡山のNPO

岡山市南区を拠点にない流域づくりを進めるNPO法人「グリーンパートナーおやかま」(藤原瑠美子代表)は、漁網にかかるなど問題となっている瀬戸内海の「海ごみ」対策に取り組み。回収活動やワークショップなどを通じて市民の環境美化意識を高め、行政も交えて海ごみが発生し

回収体験学習会を実施するほか、回収ごみの巡回展示、海底ごみをとテーマにしたワークショップなどを開催。2010年度には沿岸6府県が参加する「瀬戸内海流域環境サミット」を開く計画。

町では、イベントとして既に体験学習を開いている。31日には環境省、県、岡山市などの担当者を交えて会合をもち、今後の活動方針を確認する。

瀬戸内海のごみ問題は環境省や沿岸自治体、漁業者らによる検討会が06年度から3年間にわたって対策を協議したが具体的な活動が始まっていない。

このため、検討会に参加していた藤原代

表が同NPOの活動として始めることにし

藤原代表は「瀬戸内

海をきれいにするには海底にたまったごみを

増築 改築 **リフォーム**
 リフォーム ミサワ中国建設(株)
 本社 岡山市北区中野 豊後事務所 豊後市巨野
 ☎0120-413309
<http://www.330ck.co.jp/>

こよみ

7月30日
(旧6月9日)

日 出	5:13
日 入	19:08
月 出	13:56
月 入	23:52
宇野港=小潮	
満 潮	4:19
(潮位)	207cm
同	18:43
(潮位)	224cm
干 潮	11:21
(潮位)	62cm
同	-
(潮位)	-

牛窓沖の水温
 25・5度
 (平成25・2度)
 28日午後4時

除去すると同時に、海に流れ込む流域全体で取り組む必要がある。県内だけでなく沿岸すべての河川の流域で啓発の輪を広げたい」と話している。

(池葉須則夫)



海ごみ対策事業のイベントとして新庄村で開かれた自然体験学習

海底ごみ回収 環境考えよう

岡山NPO

来月、小豆島沖で体験学習

岡山市南区の環境NPO・グリーンパートナーおかやま（藤原瑠美子代表）は11月1日、

香川県・小豆島沖で海底ごみ回収のための底

引き網体験学習「海底探検隊」を行う。同県土庄町と四海漁協（同町）との共催で、参加者を募集している。

漁業被害や生態系へ

の影響などが生じている瀬戸内海の海底ごみ回収を通じて、河川上流域を含んだ環境保全を考えようという活動の一環。

探検隊は岡山、香川県から参加者各35人を募集。四海漁協の底引き網漁船11隻が、小豆島沖の瀬戸内海北部で行う海底ごみの回収

作業をチャーターした旅客船2隻の船上から見学。回収したごみを分別・調査する。

回収したごみは、岡山市や新庄村など、瀬戸内海に流れ込む河川流域で巡回展示する予定。藤原代表は「回収

場所は旭川や吉井川などから流れ込むごみが集積する場所。海底ごみの現実を見てほしい」と話している。

対象は海の環境に関心のある小学3年生以上（保護者同伴可）。参加費500円。先着

順で10月23日締め切り。岡山側の参加者は新岡山港（午前8時半集合）からチャーター船で出発。海鮮バーベキューはあるが昼食用のご飯は持参。ビニール製手袋や長靴も必要。

香川側は土庄町からチャーター船が出る。申し込み・問い合わせは、岡山地区が同NPO（086-267-2478）、香川地区は土庄町住民環境課（0879-67010）。

海底ごみ 量に驚き

岡山・犬島沖 NPO初回収 調査結果発表へ

瀬戸内海の海底ごみ回収し環境保全を考える「海底探検隊」(山陽新聞社など後援)が1日、岡山、香川両県の約100人が参加し、犬島(岡山市)沖で行われた。

岡山市の環境NPO「O・グリーンパートナー」(貝こぎ)でごみを引き上げ、参加者は別の船から見学した。

回収したごみは家庭用ごみ袋約20袋分。ペットボトルやビニール類、空き缶のほか、電

同漁協の漁船が底引き網と、金属の鋭いつ

気がまななどもあり、海底ごみを研究している岡山市の山陽女子高地

岡山市の環境NPO「O・グリーンパートナー」(貝こぎ)でごみを回収し、環境保全を考える「海底探検隊」(山陽新聞社など後援)が1日、岡山、香川両県の約100人が参加し、犬島(岡山市)沖で行われた。

歴部の指導で分別した。

岡山県吉備中央町の吉備高原希望中1年藤原杏奈さん(12)は「こんなにたくさんのごみが沈んでいるなんてショック。魚への影響が心配」と話していた。

岡山県立美術館で開くエコ啓発イベントで、回収したごみを展示、ごみがどこから流れてきたかの調査結果



大量の海底ごみを分別する

参加者

同NPOは、12月6

日に岡山県立美術館で開くエコ啓発イベントで、回収したごみを展示、ごみがどこから流れてきたかの調査結果

Okayama Area

岡山都市圏版

この紙面は読者のみなさんと

山陽新聞社ホームページ <http://www.>

瀬戸内海の環境考えよう

自然守り、未来を考えよう。岡山市の環境NPO・グリーンパートナーおかやま(藤原瑠美子理事長)は6日、同市北区天神町の県立美術館で、瀬戸内海の環境保全をテーマにしたシンポジウム「里山・里川 流域から考える里海づくり」を開く。

海、川、山の3エリアを代表した小中学生や漁協、住民グループなどが

グリーンパートナーおかやま

日ごろの活動を発表。海節夫京都大名菅教授、同じくには備前市の日生中学校と日生町漁協が、不要となったカキいかだを使った竹炭製作などを取り上げる。ほかに、西高校OBらと旭川流域ネットワークが川、新庄小と新庄村が山での活動事例を報告する。

示す。藤原代表は「海、川、山それぞれの現状を認識し、水と緑の循環について考えるきっかけにしたい」と参加を呼び掛けている。午前11時開始。午後1時から活動発表やシンポジウム(定員200人)は、入場無料だが事前申し込みが必要。同NPO(086-267-2478、Eメール:info@green-partners.org)。(池葉須則夫)

6日 県立美術館 活動発表やシンポ

Okayama Area

岡山都市圏版

この紙面は読者のみなさんととも

山陽新聞社ホームページ <http://www.san-yo.com>

瀬戸内の自然次世代に

漁協、市民団体
行政関係者ら
環境保全を討論

岡山でシンポ

瀬戸内海的环境保全をテーマにしたシンポジウム「里山・里川・流域から考える里海づくり」(NPO法人グリーンパートナーおかもま、備前県民局主催)が6日、岡山市北区天神町の県立美術館で開かれた。漁業や行政関係者、市民団体スタッフらが、瀬戸内の自然環境を次世代に残そう、と話し合った。約250人が参加。パネリストは、「海」「川」「山」の3エリアの代表として日生町漁協、旭川流域ネットワーク事務局長の奥田節夫、新庄村職員、研究都大名誉教授が務めた。



瀬戸内海的环境保全などをテーマに話し合うパネリストたち

ワーク事務局長の奥田節夫、新庄村職員、研究都大名誉教授が務めた。

た。深刻化する海底ごみ問題と、海に水が流れる山や川との循環をテーマに意見交換。「漁業関係者や流域住民、研究者が一体となって問題を考える必要がある」「小さいことからでもアクションを起こすことが大切」など意見を話し合った。

また、新庄小5年生10人が、自然の大切さを訴える創作劇「みんなのほこり」を上演、日生中生徒も磨力キイカダを使った竹炭製作の活動発表をした。同NPOは来年以降、瀬戸内海沿岸府県に呼び掛けて「流域環境サミット」を開く計画。藤原瑠美子理事長は「かつて世界の宝石と賞された瀬戸内海のみらびに磨きをかけるため活動の輪を広げたい」と話した。

(池葉須則夫)